

石狩湾東部沿岸におけるウミガメ類ストランディングの記録

Stranding records of sea turtles

along the eastern coast of Ishikari Bay, Hokkaido, Japan

志賀 健司*

Kenji SHIGA*

要 旨

石狩湾東部沿岸における継続的な漂着物調査の結果、2005年以降の15年間でウミガメ類のストランディング記録（死亡漂着）が3件確認された。その内訳は、アオウミガメ1件、アカウミガメ1件、タイマイと思われる個体1件である。

キーワード：ウミガメ、漂着、混獲、日本海、対馬暖流

ウミガメのストランディング

ウミガメは爬虫綱カメ目ウミガメ科およびオサガメ科の海生動物の総称で、日本近海ではアオウミガメ *Chelonia mydas*、アカウミガメ *Caretta caretta*、ヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea*、タイマイ *Eretmochelys imbricata*、オサガメ *Dermochelys coriacea* の5種が生息している。いずれも熱帯～温帯の主に外洋域に分布し、メスの産卵時以外は海中で生活する（高田・大谷, 2011；亀崎, 2012）。5種とも「種の保存法」の対象に指定されており（環境省・日本ウミガメ協議会, 2006）、IUCNレッドリストでは絶滅危惧IA（CR）～IB（EN）に区分されている（IUCN, 2020）。環境省レッドデータブックでは、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種が絶滅危惧IB類（EN）～II類（VU）に区分されている（環境省, 2019）。

ウミガメは通常は北海道周辺海域では見られないが、稀にストランディング（漂着・混獲）事例があり、例えば1997年～2000年の間には太平洋沿岸と日本海沿岸とで21件の事例（半数強はアカウミガメ）が記録されている（小林・亀崎,

2008）。また、2012年・2013年にはオホーツク海側でも2例のアカウミガメのストランディングが確認されている（白井ほか, 2014）。日本海側の石狩湾沿岸では、著者が漂着物調査を開始した2005年以降、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイもしくは交雑種の漂着記録がある（志賀・伊藤, 2008；志賀, 2015）。また、同じ石狩湾沿岸の小樽市では1995～1996年頃に蘭島でアカウミガメが漂着し、骨格標本が小樽市総合博物館に収蔵されている。ウミガメの分布域から、これらの漂着個体は暖流によって温帯以南の海域からもたらされたものであり、北海道以南を起源とする暖流系漂着物と見なすことができるため、海水温や海流など、海洋環境の変動がその背景に潜んでいる可能性がある。将来的にそれらの検討材料となるよう、これまでに著者が発見・採集、あるいは情報提供を受けた、石狩湾東部沿岸のウミガメ類ストランディング事例の詳細をまとめて報告する。

石狩湾東部沿岸でのストランディング （漂着・混獲等）の記録

石狩浜および周辺海岸（図1）における継続的

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

表1. 石狩湾東部沿岸で確認されたウミガメ類ストランディング

発見日	種名	発見地	直甲長 (cm)	状態	備考
2007.12.06	アカウミガメ	石狩浜 (石狩市)	21	新鮮 (→流出)	
2014.03.24	アオウミガメ	無煙浜 (石狩市)	約40	甲のみ (→消失)	直甲長は写真より推測
2014.05.06	タイマイ	石狩浜 (石狩市)	31	ミイラ状	交雑種の可能性もある

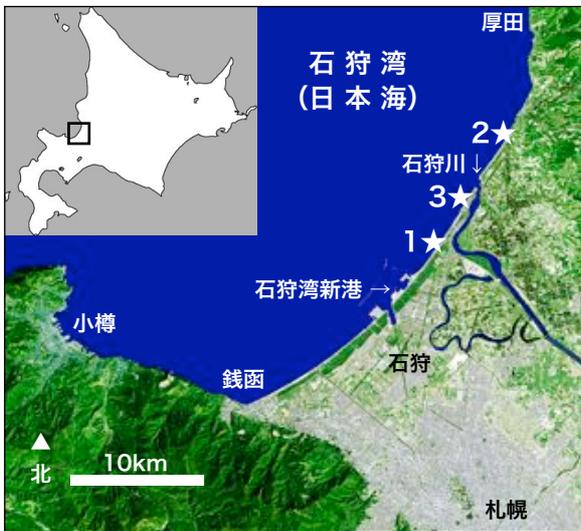


図1. 調査地域。☆は発見場所。1：2007年アカウミガメ，2：2014年アオウミガメ，3：2014年タイマイ。

な踏査による漂着物調査，調査協力者からの情報収集などから，2005年以降，石狩湾東部沿岸では3件のウミガメ類ストランディングが確認された（表1）。いずれも死亡漂着で，死体に放流標識等は見られなかった。

2007年12月6日：アカウミガメ（図2）

石狩湾新港の東方の石狩浜を踏査中に死亡漂着を発見した（志賀・伊藤，2008）。当日の朝9時の海水温は3.7℃，海からの風が極めて強く，砂浜には大量のアマモ類の漂着が見られた。ウミガメ

は腐敗や食害がまったくない新鮮な状態で，漂着直後であることを窺わせた。頭部が大きく，背甲は前方ほど幅が広いハート形で肋甲板が5対あることなどから，アカウミガメと同定できた。直甲長21cmと小さいことから，若年個体と思われた。発見した死体は一時的に砂中に埋設保管したが，後日，波浪により流出したことが確認された。

2014年3月24日：アオウミガメ（図3）

石狩市厚田区無煙浜での漂着発見の情報と画像提供を受けた（ビーチコーミング愛好家からの私信）。背甲および腹甲のみで軟体部は完全に欠損しており，漂着後，数日から数週間単位の時間が経過していたものと思われる。背甲全体が滑らかで卵形，肋甲板が4対であることからアオウミガメと同定できた。直甲長およそ40cmで，比較的若い個体と推測された。情報を受けてすぐに現地確認に向かったが，死体はすでに消失していた。汀線から十分に離れた内陸側にあり，高波の痕跡もなかったことから，人為的に持ち去られた可能性がある。

2014年5月6日：タイマイ（図4）

志賀（2015）の報告にあるもので，石狩川河口左岸側の石狩浜で死亡漂着が発見され，標本がいしかり砂丘の風資料館に持ち込まれた。軟体部の欠損はないが，全身は乾燥したミイラ状であつ



図2. アカウミガメ (直甲長21cm, 2007年12月6日, 石狩浜).



図3. アオウミガメ (直甲長約40cm, 2014年3月24日, 石狩市無煙浜, 撮影: 工藤友紀さん).



図4. タイマイ (直甲長31cm, 2014年5月6日, 石狩浜, 撮影: 石橋孝夫さん).

た. 甲の縁辺部が鋸歯状, 肋甲板が4対, 前額板が2対あることなどからタイマイと推測されたが, その他の形質から, タイマイと他のウミガメ類との交雑種の可能性もある. 直甲長は31cmと小さく, 若年個体と考えられる.

海岸漂着物に見られる切断痕

石狩浜ではこれらウミガメ本体のストランディングのほか, ウミガメの食痕と考えられる切断痕が刻まれた漂着物が, しばしば発見されている (図5). 軟質のプラスチック類に菱形もしくはV字形に1~2cmほど切り取られたような痕が見つかることがあるが, これはturtle biteと呼ばれ, ウミガメが誤食したときに噛み切られた痕跡と考えられている (Williams and Sullivan, 2005). 漂着プラスチックの中でも韓国製や台湾製など,

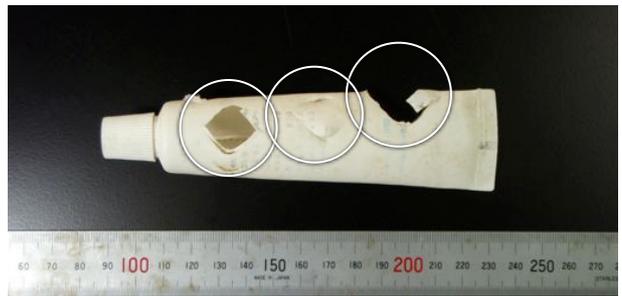


図5. 石狩浜で採集された漂着プラスチック (韓国製) に見られるturtle bite (○印).



図6. 石狩浜で採集された漂着コウイカ殻に見られるturtle bite (目立つ痕のみに○印).

対馬暖流起源と考えられるものに特に多く見られる。また、主に熱帯～温帯海域に分布する頭足類コウイカの殻が石狩浜に漂着することがあるが、それらにも同様の痕跡が見られることが多い（図6）。2016年の漂着物調査では、石狩浜周辺で採集された漂着コウイカ殻192個中54個にV字形の傷が確認されている（志賀, 2017; 2018）。

漁網への混獲

これら近年の漂着関連の事例に対して、石狩湾沿岸でも過去に稀ではあるが漁網への混獲事例も知られている。その一例として、いしかり砂丘の風資料館に収蔵されているウミガメ甲がある。これは石狩市厚田区（当時は厚田村）で混獲され、背甲に漁業者と思われる名前・屋号を刻んで放流された後、別の海岸に死亡漂着したとされる標本である。直甲長59cmで、形態からアカウミガメと同定できるが、時代など詳細は不明である。このような混獲事例も貴重な情報であり、今後の調査が必要である。

このようなウミガメ類のストランディング事例や痕跡は、暖流系生物の北上を示す貴重な記録であり、日本列島周辺の海面水温や対馬暖流の勢力の変動を反映していると考えられる。現段階ではまだまだ情報量は少ないが、今後も長期間に渡って調査を継続してデータを蓄積していくことが必要である。また、自然漂着事例に加えて漁網への混獲事例の情報も収集していくことによって、将来的に海洋環境の変遷や海洋生態系の解明に寄与するデータとなっていくことが期待できる。

謝辞：札幌市の工藤友紀さん、いしかり砂丘の風資料館学芸協力員の石橋孝夫さん、北海道大学総合博物館教授の大原昌宏さん、小樽市総合博物館学芸員の山本亜生さんからは、漂着情報や採集標本を提供していただいた。札幌市の徳田龍弘さん、日本ウミガメ協議会の平井紗綾さんには同定に際してご指導いただいた。皆様に感謝いたします。

引用文献

- IUCN, 2020. The IUCN Red List of threatened species, ver. 2019-3. <https://www.iucnredlist.org/> (2019年12月閲覧)
- 亀崎直樹 編, 2012. ウミガメの自然誌／産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会.
- 環境省・日本ウミガメ協議会, 2006. ウミガメ保護ハンドブック. 環境省・日本ウミガメ協議会.
- 環境省, 2019. 環境省レッドリスト2019. 環境省. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf> (2019年12月閲覧)
- 小林万里・亀崎直樹, 2008. 北海道沿岸におけるウミガメの記録. うみがめニューズレター, 77: 10-13.
- 志賀健司・伊藤静孝, 2008. 2007年に北海道石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物. 漂着物学会誌, 6: 11-16.
- 志賀健司, 2015. 2014年に石狩浜で発見されたタイマイと思われる個体の漂着. 北海道爬虫両棲類研究報告, 3: 21-23.
- 志賀健司, 2017. 2016年の北海道石狩湾沿岸におけるコウイカ殻の漂着. いしかり砂丘の風資料館紀要, 7: 1-6.
- 志賀健司, 2018. 石狩浜のコウイカ大量漂着と殻に見られる食痕. 北海道自然史研究会2017年度大会講演要旨, 10.
- 高田榮一・大谷勉, 2011. 原色爬虫類・両生類検索図鑑. 北隆館.
- 白井平・渡辺紗綾・野村卓之, 2014. オホーツク海沿岸の枝幸沖で捕獲された枝幸町初記録のアカウミガメについて. 枝幸研究, 5: 29-31.
- Williams, J. and Sullivan, G., 2005. Wracky Potpourri. *The Drifting Seed*, 11(3): 13-15.

Stranding records of sea turtles along the eastern coast of Ishikari Bay, Hokkaido, Japan

Kenji SHIGA

Abstract

Continuous survey of beach drifts revealed three cases of sea turtle strandings (dead stranding) along the eastern coast of Ishikari Bay for 15 years since 2005. The breakdown is one green turtle, one loggerhead turtle, and one individual appeared to be hawksbill turtle.

Key words: sea turtle, drift ashore, bycatch, Japan Sea, Tsushima Warm Current

